

平成 28 年度 学校法人 三幸学園 大阪医療秘書福祉専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 渡邊 慧

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 杉谷 肇

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療福祉分野の学校として「医療現場で医療を通じて、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療福祉分野として「相手のこうして欲しいを理解し、考え動ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・人間性を育むための教育

生徒の人間性を育むために、「あきらめない教育」を日々実践している。生徒の社会人としての基本スタンス(あいさつ・礼儀・報連相等)については、まだまだ育成する必要があると感じている。日々の生徒指導において、現場の求める基本的なスタンスを養えるよう育成し、土台をかためた上で、主体的に現場で活躍できる人材育成を目指す。

・検定合格率の向上

三幸学園全国姉妹校との比較でいうと、検定合格率の結果がまだまだ低い。専門的な知識・スキルの獲得の為に、検定合格率を向上させていくことを目指す。各検定において、目標値を定め、検定合格においてリーダーシップを取る、教科チーフの実施すべき業務レベルを明確にし、合格率向上を目指していく。

② 学校関係者評価委員会コメント

・例年実習・就職で生徒を受け入れる立場からも、学生に対して情熱をもって指導している事は、評価できる。

・医療機関は、医療制度の変更が頻繁にある為、産学連携をより強化しながら、「技能と心の調和」を持った人材を多く輩出される事を期待している。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・生徒、保護者に対して、理念や育成人材像の更なる周知
- ・業界のニーズを踏まえた、各学科における教育目標、育成人物像の明確化

② 今後の改善方策

- ・ビジョンポスターの掲示や、ホームルームにて、理念・育成人物像を継続して伝えていく
- ・現場への訪問を実施する際に、現場の求める人物像における、情報収集を行う

③ 特記事項

- ・教室にビジョンポスターの掲示し、目指す人物像・ミッション・ビジョンを生徒に浸透させているので、特にそのポスターに触れることを意識していく
- ・現場訪問の際に、現場の求める人物像のヒヤリングを実施しているので、学科(職業)ごとに集約をして明確化を行う

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・就職や実習などでの挨拶や礼儀に関しては非常に評価しており、即戦力して通用するレベルにある。
- ・近年の学生は自ら能動的に仕事に取り組む姿勢が見られなくなっており、主体性や、業界への想いを感じられなくなっている。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・業務の効率化

① 今後の改善方策

- ・業務削減などを継続的に実施し、また業務効率化(電子化)を行う

③ 特記事項

- ・年3回の全教職員に向けて全体会議を実施し、運営方針の浸透や、教職員間の情報共有を積極的に行っている。
- ・学園全職員が一同に集う「ビジョンミーティング」にて、毎年の方針の浸透が図られている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・どの業界に関しても、働き方改革において、業務の効率化は共通の課題である。
- ・企業や学園の企業(共育)理念を生徒や社員に十分に継承をすることも、今後事業運営の指針にするべきである。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発
- ・授業の精度の更なる向上、並びに、授業の質の均等化

② 今後の改善方策

- ・学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会からの意見の集約を行い、カリキュラムの改善を推奨していく
- ・学生による授業アンケートを活用・参考にしながら、各教員の教授力把握と改善に努めていく。また、学期の途中で授業に関するセルフチェックシートを教科担当教員に記入させ、個々人でも授業の改善に努める。
- ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員の確保していく

③ 特記事項

- ・学生による授業アンケートについては、アンケートを各教員が受け取り、改善に努めている

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・今後も専門分野の教育機関として、職業教育の精度を上げていく必要がある。特に、実践につながる分野におい

て充実させることが必要である。

・人前でのプレゼンテーションの機会も拡充すると即戦力して活かせる。それは大勢の前でのプレゼンテーションのみだけでなく、患者様複数人の前での立ち居振る舞いにも転用ができるためより授業を充実させてもらいたい。

・クレーム対応を含む、不測の事態に対して柔軟な対応ができない学生が増えているため、様々な状況を想定したビジネスマナーなどは検討し、カリキュラムに反映してもらいたい。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・退学率の低減。皆精勤率の向上
- ・資格取得率の向上

② 今後の改善方策

- ・担任会議、クラス会議などを通して、教員間で生徒情報の共有と、生徒個々へのフォローを行う
- ・検定合格に向けてリーダーシップを取る教科チーフの業務内容・レベルを明確する。また、教科会を恒常的に実施して、授業内の資格取得対策を更に強化する

③ 特記事項

- ・資格取得に際しては、検定weekを設け、より検定取得しやすい時間割設定を行っている

④ 学校関係者評価委員会コメント

・退学者の防止に関しては、改善したい問題である。特に人材不足と言われる業界でもあるため早急な対応が必要である。

・産学連携をとり、企業側での退職希望者についても学校に相談をし、元担任に相談先として提示するなど包括的に取り組んでいきたい。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・卒業後の有効な情報提供
- ・学生相談に関する体制

② 今後の改善方策

- ・「同窓会組織」を強化しており、同窓会専用サイトにより求人情報などの有効な情報を提供していく。
- ・スクールカウンセラーを設置し、学生相談体制を強化しているので、生徒へのカウンセラー設置の告知を行う

② 特記事項

- ・同窓会 sanko link が開設され、卒業生に対しての情報発信、就職フォロー等を実施していく
- ・就職支援に関しては、担任教員と就職担当教員による、ダブルフォローアップ制度を行っている

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・卒業生からの観点でも本校の就職への支援体制には非常に満足しており、充実していると評価する。
- ・今後の課題として、卒業生の再就職支援に対してのフォロー体制を拡充していくことである。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・教育上の施設・設備において、プロジェクター・スクリーンなどの授業備品を整える
- ・定期的な防災訓練の実施

② 今後の改善方策

- ・防災訓練の定例実施や、施設・防災関連備品のチェック・購入を行う

③ 特記事項

- ・現場実習の場を設けており、将来就職する業界で、在学中から現場経験を・積める仕組みを取っている
- ・アメリカのチルドレンズ・ホスピタルやファーマシー（薬局）と連携し、ロサンゼルスでの海外研修を行っている
- ・ハザードマップを配布し、緊急時の対応を全校的に統一している

③ 学校関係者評価委員会コメント

- ・十分に施設として環境は揃っているように感じる。教室もキレイで評価できる。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・学科による入学者数の格差

② 今後の改善方策

- ・入試広報室との連携を取り、ニーズ調査、原因分析
- ・介護福祉士科において、留学生の入学促進

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・例年拡充しており、評価できる。
- ・介護福祉の業界において、担い手が減っているため、入学者についても新たな取り組み(留学生対応など)が必要に感じる。ただし、引き受け先については段階的な応じる状況で一元的には進むことが難しい現状である。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

中長期事業計画は2012年に策定したが、当該計画は前倒しで終了しているため、今年度に更なる中長期計画を策定する必要性がある。

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

ホームページ上の公開については抜粋版が公開となっているが、今後は事業報告などの詳細な情報の公開が必要。

② 今後の改善方法

【中期計画】

今年度に新中期計画を策定する予定である。

【財務情報の公開】

今年度よりホームページ上の法人の事業報告書を公開する予定である。なお、当該報告書には財務情報にかかる詳細データを掲載する事となっている。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員からのコメント

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・特になし

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	2
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・生徒にボランティア活動の奨励・斡旋・支援

② 今後の改善方策

- ・地域の医療機関、介護施設と連携し、ボランティア活動を計画・実施していく

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ボランティア活動においては、学業とのバランスを見ながら拡充をしていきたい

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	2
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	2

① 課題

- ・留学生の受け入れ体制の構築

② 今後の改善方策

- ・留学生用の学生生活ガイドブックの作成や受け入れ時の事務手続きを担当の設置

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・専門教育機関としての人材育成に関しては、実習や就職において評価している。
- ・コミュニケーションスキルについては様々な観点や、切り口からも磨きをかけてほしい。不測の事態に対してや、クレーム対応についても現場を見据えて教育を行ってほしい。
- ・個人を表現する方法を口頭のコミュニケーションスキルのみではなく、レポートのような読み書きにおいても、順序立てて表現できるよう教育を行ってほしい。
- ・企業(学園)の理念の継承の仕方まで細部にも目を向け今後も良い組織づくりに期待している。